

スマイル タウン

第330号

2024.9
発行

ひの社会教育センター は、市民のみなさまの
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する
施設として、1969年に日野市と（財）社会教育協会が
協定書に基づいて設立しました。
今月もセンターで生きがいづくりをされる沢山の
市民の方々の活動をお伝えします。

おとな講座

『やさしいエアロ&ストレッチ』



心も体もスツキリ
楽しむ自分時間

- 新コーナー「わたしたちの社会教育」
- 社会教育コラム（社会教育協会より）
- 表紙の講師は…やさしいエアロ&ストレッチ 中野ますみ先生
- ひの社会教育センターからのご案内・賛助会・寄付お礼等
- 職員・スタッフの『わたしのサステナブル』コーナー

「わたしたちの社会教育」①

今号より、職員同士の対談形式で『わたしたちの社会教育』を語る新企画が始まります。

心の社会教育センターでは職員の興味・関心から広がる出会いや交友関係から、イベントや事業につながるものが多くあります。事業を手掛けることに、どのような意義や価値、成果を期待して進めているのか？職員同士の対話から、社会教育施設の存在意義についても考えていきます。

また、社会教育協会理事の荒井文昭先生（東京都立大学人文社会学部人間社会学科教授）にも同席していただき、荒井先生の視点から講評をいただきます。

第1回テーマは、なぜ「クリーニングデー」を「ひの社会教育センター」が実施しているのか？

フィンランド発祥のアップサイクル・カルチャー・イベント、クリーニングデーを、昨年5月・11月、今年の5月と3回開催しました。

5月下旬に本場フィンランドのクリーニングデーにプライベート旅行で視察に行った、当センター副館長の山本江里子に、職員の寺田達也が話を聞きます。

「クリーニングデー」って何？

寺田…クリーニングデーは昨年、突如、話が出てきて、気が付いたら形になっていた印象ですが、そもそもどのようなイベントなのか、またセンターで実施することになった経緯から聞いていきたいと思えます。

山本…夏の短い北欧・フィンランドのイベントで、5月と8月の最終土曜日に、国のあちこちで開催されています。直訳すると「おそらじの日」ですが、ただ不要なものを販売するフリーマーケットの意味合いだけではではないやり方が、センターの価値観とも通ずる

ものがあるのではと直感しました。

『暮らしを大事に、物を大切にすること』をコンセプトにしたクリーニングデーを知り、やってみたく思ったきっかけの大きなひとつは、移転前まで開催していたバザーが出来なくなったこと。何かそれに替わるものがないかずっと考えていました。

寺田…移転前まで毎年行われていたイベントのバザーは、センターを応援してくれている賛助会のメンバーで構成された実行委員の皆さんを中心に、センターの利用団体さんや、地域間交流の新潟県十日町市の皆さんの協力のもと、長年にわたり地域にも根付いていました。移転後、現在の建物では、バザー提供品の保管場所がなく、また、残ったものの処分にかかる費用が膨らんでいたこともあり、イベントの意義を考えたとき葛藤もありましたよね。

山本…移転やコロナ禍を経て、そろそろ地域の皆さんと協力して何かできないかな、と考えていたとき、クリーニングデーのイベントを日本で始めた、クリーニングデー・ジャパン事務局代表の森下詩子もりしたしうこさんのことを知りました。そこで、森下さんをコーディネーターに招き、公民館と連携し、映画と対話のワークショップを企画しました。物との関わり、自らの暮らしを見つめ直す内容のドキュメンタリー映画『365日のシンブルライフ』を上映し、観たあとに何を感じたか、自分の生活に落とし込むには？ということと一緒に観た方と語り合い、対話をおして学びました。その一年後、クリーニングデーを実際に日野市多摩平地区で開催することになります。

寺田…公民館と連携して地域での活動につなげていった形が、まさに社会教育だと思えます。うちっばい進め方ですね（笑）

フィンランドで広がったクリーニングデー

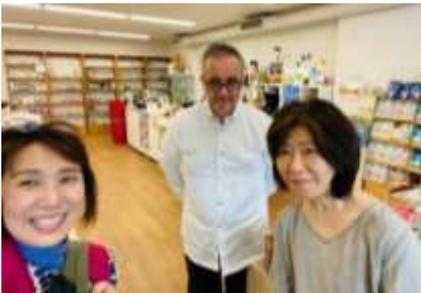
山本…クリーニングデーはフィンランドのNPOが12年前に立ち上げたイベントです。誰でも登録さえすれば参加できて、夏の最初と最後を楽しむイベントとして定着している様子でした。「そらじの日」という単語を使っています。ただ家の中のいらぬものを外に出すというのではなく、フィンランドのモノを大事にする文化と、外に出て地域の人たちとつながって楽しもうというイベントとしてのデザインに森下さんも魅力を感じたそうです。

寺田…NPOから始まったことで、国民みんなが知っているというのがすごいですね。そこまで広がった理由みたいなものも見えましたか？

山本…今回、ヘルシンキでギフトショップ「ノルデイス」を営むういんまきこ氏家雅子さんとテロさんにお話を伺えたのですが、フィンランドは冬が長く肥沃な土地ではないことから、昔から「物」を大切に国民性があるそうです。先祖代々引き継ぎながら良い家具や食器を使うこと、子ども服を譲り合うことは当たり前。クリーニングデーは、ガレージセールや蚤の市をより身近にしたイベントで、そのまま暮らしの一部になったようです。資源の少ない自国から生み出されるグッドデザインと言われる「価値の高い物」を、国民みんなで使って大事にする考え方が軸にあるようです。

寺田…なるほど。もともと売っているものや持っているもの自体に価値があって、時代を経て水平にぐるぐる回っているという感じですか？

山本…水平って言う考え方は、じっくりきます！そうしたモノを大事にする文化は、日本も元々持っていた生活文化だ



右より、取材協力「ノルデイス」の氏家雅子さん、テロさん、山本

と森下さんは話しています。そこで、ただのフリーマーケットイベントではなく、「アップサイクル」という、モノをリユース・リサイクルするだけではなくモノに新しい価値や有用性を見出すという付加価値をつけたのだそうです。クリーニングデー・ジャパンに登録することで同じロゴの看板やチラシ、商品に付けるタグも使用することができます。売る人が売るモノに+αのストーリーをのせて売ることが出来ます。

寺田…サービスの世界でも、物の時代からコトの時代へと変わっていますよね。ストーリーを設けることで物の価値を上げているという感じでしょうか。

山本…今、モノの売買もネットで簡単に済ませられますが、あえて人と会い、物語を聞きながら買う時間は豊かな時間だと思います。



↑日野で開催した際のチラシデザイン



↓新緑まばゆいフィンランドのクリーニングデーにて

本場のクリーニングデー、実際の様子？

寺田…その日は街中あちこちで開催されているということですが、現地の雰囲気はどのような様子でしたか？日本でイベントをやるときなどは、使用許可が…とか、よく聞く話ですが、そういう規制や参加費などはあるのですか？

山本…基本的には、その日は誰でもどこでも無料で出店が出来るのですが、メイン会場は申込制のようです。公園やショッピングセンター、美術館等、大小様々な規模で開催中でしたが、全体的に皆のんびりと夏の始まりを楽しんでいる雰囲気でした。

日本の事務局には、ルールに関する問い合わせが多いのですが、本場は、時間も区画もびっくりするくらい自由でした。根底に、フィンランドで育まれていた「自己責任」が、上手く機能していると感じました。

寺田…自由度が上がるほどに、自己責任感が強くなりますね。アウトドアの世界にも通ずるものがあります、ルールが無い方が自分で考えるんですよ。

山本…楽しみ方も自分で考えるから広がりやすいですね。子どもたちも参加しながら、手作りのクッキーなどをお皿に並べて売ったりして、イベントで食品を扱うときなんかは、いろいろ考えちゃいますよね(笑)でも日本のおすそわけを思い起こす風景でした。

寺田…日本にも残る泥臭さみたいな感じは、外から見ると案外いいのかもしれないですね。

山本…日本でもみんなでお餅をついて食べていたりするのは、外国から見たらすごいと思われるかもしれません!(笑)

「クリーニングデイ」のこれから

寺田…本場を見てきた伝道師として、今後のフィードバックや野望はありますか?

山本…なんでも買える時代は終わったかなと感じます。丁寧に選んで買う、使っていないな、買ったものを、丁寧に売れる場ができた方がいいな、と思います。日野市はヘルシンキの空気に似ていると勝手に思っています。

歩いて一周できる規模感も通ずるものがあった。また日野市にも素敵な公園がたくさんあります。公園や地区センター、社会資源を上手に使い、日野市や地域の方の協力も得ながら、いくつかの場所ですべてにクリーニングデイを開催するとか、想像したら出来そうじゃないですか?

寺田…イベントが形になり軌道にのった後に予測される課題として、商売つぎを出したり、コンセプトに反する事態が起きる可能性も出てきそうですね。

山本…どんな人も一緒にやれたらいいなと思います。フィンランドでもその人がそのやり方で幸せならよしとされている雰囲気でした。

寺田…全部自己責任であり、「あなたが幸せならそれでいいんじゃない?」という、主催側のぶれない心が大切かもしれないですね。

山本…社会教育って実はそういうことかなと思っています。研究を重ねてこれが正しい!と作り出すよりも、いろいろな人たちが、実際に自分事として、幸せにできた!というところが、行きつくところかな、と。

寺田…クリーニングデイはバザーを進化させて、表現変えただけ?なんて思っていました。が、実は教育的要素がいっぱいでした。

山本…未完成だからこそ、いろいろ変えていける可能性があると思います。今回、本場の様子を見て、生きていることをもつと楽しむべきと感じました。

寺田…センターでのクリーニングデイがどう発展していくか楽しみです!

【荒井先生からの講評】

「暮らしを大事に、物を大切にする」フィンランドのクリーニングデイに着目する、山本さんのセンスに魅力を感じました。「今、モノの売買もネットでも簡単に済ませられますが、あえて人と会い、物語を聞きながら買う時間は豊かな時間だと思います」という発言を、私もその通りだと思えます。そしてまた、移転前まで毎年おこなわれていたバザーを、新しいかたちでつないでいく取り組みは大切だと思います。

また、フィンランドのクリーニングデイをプライベート旅行で視察した、という発言にも私は興味を持ちました。社会教育にかかわる職員には、「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」ことが法律で義務づけられています(教育公務員特例法21条など)。ですがセンター職員のみなさんは、楽しんで、そして軽快に「研究と修養」を実践しておられるのだなあと感じました。利用者から信頼される職員であり続けるためには、職員自身が学び続けることが大切です。そのための条件整備が今後の課題であることを、改めて考えました。



〈右より〉職員 山本・寺田

〈下〉荒井文昭先生
講評・課題提起を
ありがとうございます



【社会教育フォーラム】

私が学生時代から関わっている社会教育研究全国集会(実行委員会など主催)が8月24日・25日に開催されました。第63回となる今回は「東北福島集会」と称して福島大学をメイン会場に、オンライン参加を含め500人近い参加者で活気あふれる集会となりました。東日本大震災・福島第一原発事故から13年が経過していますが、復興が叫ばれる中で、地域に広がる格差や分断を越える共同の学びが求められています。そうした社会教育実践の蓄積を福島県内や東北を中心に掘り起こし、深めていくという目的での福島開催となりました。

この集会では韓国との交流も30年ほど続けられています。韓国では日本という社会教育は「平生教育」といい、これに関わる研究者や「平生教育士」とよばれる専門職員など14人が参加しました。日韓交流の特別分科会も2日間にわたって開催され、日韓双方の「地域づくり」に関わる実践報告を通じた研究交流が行われました。

実は原発事故で被災した福島というイメージで、訪問に不安を感じていた韓国の方もいたと聞きます。また、迎える側の福島の実行委員にも、そうした声に複雑な感情を持った方がいたとのこと。しかし、対面で学び合うことで不安は払拭され、日本側で取り上げた二本松市の集落支援員の方の実践にも韓国の参加者から大きな反響がありました。国の枠を越えてリアルな場での出会い、そして一緒に学び合うことがいかに大事かということを感じて感じました。

星野一人(公財)社会教育協会事務局長

表紙の講師は…

【やさしいエアロ&ストレッチ】

金曜日(15時~16時半)

講師 中野ますみ先生

「暑いですね。みなさん、朝ごはんは食べられていますか?」と会員さんの調子を聞きながら始まるこのクラス。

中野先生は音楽スタートと共に、エアロビクスの動きを耳心地の良いやさしい説明とともに休みなく続けます。ほぼ毎週開講していますが、前回の続き…というやり方はせず、お休みしても同じスタートラインから始められるように、毎回ステップを変える工夫をしているそうです。

センターでは20数年続くクラス。毎週開講は大変じゃないですか?と聞いてみました。会員さんと一緒に年を重ねてきて、一週間の生活サイクルの中、週末の金曜のこの時間に思い切り体を動かし、「週の終わり」でリセットする感じが、と話す先生。顔と名前が見える関係で、今日は調子が良さそう、疲れているかな?なども見ればわかるのだそう。様子を見ながらエアロビの動きも変化、発展させています。

エアロビは趣味で始めたという先生。教えてくれた師匠に習いながら、ご自身でも資格をとり、自分でクラスを持つようになりました。もともと前に出るタイプではなく、一番後ろでこっそりと習っていましたが、いつの間にか前に前にと背中を押されていました。そのときのお仲間たちとも、今も変わらず一緒にエアロビをやっているそうです。



↑鏡越しにみなさんの様子を見ながら進めます

以前やっていたテニスでは一人ではできないスポーツ。「うまくいかないとき周りの方にとっても気を遣って…エアロビは人に気を遣わず、楽しくて、体を動かしているときは悩みも消えて、そして消えてしまう程度の悩みだったんだって前向きになれたんです。エアロビが自分に合っていました」とお話しくださいました。

いつも会員さんへのメッセージを聞いて終わるインタビューですが、伺ってきたお話の中に「これからも一緒に体を動かしながら、元気でいようね。」という先生からのメッセージを見つけました。

ひの社会教育センターからのご案内

【地産地消でできるサステナブル】



私の住む地域は田畑が多く、農家さんの野菜の直売所があちこちにあります。3年前に家族に犬(バグのゴン太)を迎え家の近所を散歩することが日課となり、立ち寄って野菜を購入することが多くなりました。季節によって様々

な野菜が並ぶので、『もうこんな季節になったんだな。』と野菜から季節を感じたり、買い物に来ているご近所の方々から愛犬に声をかけていただいたり、ただ買い物をするだけでないささやかな癒しの時間となっています。野菜を買いに来ているお客さん達もお店の方と会話したり、お客さん同士で挨拶したり、いつもゆったりほっこりした雰囲気です。地元で育ったおいしい野菜をその地域で食べることは(全く意識していませんでしたが)『地産地消』という立派なサステナブルとのこと!

おいしい・安心・安全に、さらに環境のためになるなんて一石四鳥!!これからも身近にできるサステナブルを続けたいと思います。

〈取材協力:日野市西平山の旗野農園さん〉

スタッフ:清水



今日は何を買うのでしょうか? お散歩の途中で。ゴン太&ご近所犬モチ



賛助会へのご協力ありがとうございます

★順不同・敬称略

- ①個人会員 1口 1,000円
 - 赤堀みち子3口 稲山恵久3口 小野口敬一5口
 - 小俣純一3口 笠井八重1口 金子尚弘3口
 - 金子美千代3口 川松ゆり5口 熊谷亜由美5口
 - 笹本竹司5口 佐藤ヒサ子10口 只木貞吉3口
 - 鈴木あけの10口 田村省三1口 鳥居由幸5口
 - 名取潮子3口 能村博人3口 橋本弥生5口
 - 早川直子3口 原田茂・晴美10口 原梢10口
 - 檜佐やい3口 平塚宗雄10口 古谷靖幸2口
 - 廣本隆彦・碧20口 村野米三3口 山田佳子3口
 - 松永義希・伸子10口 谷掛駿介・富美子10口
 - 中馬瑛子5口 名取美佐子1口 森野篤子3口
 - 蜂屋弘之・道恵10口 進緑3口 平野紀子5口
 - 遊馬和夫3口 藤田郁子5口
 - 畔上元栄10口 入手喬5口 駒形正三・富子5口
 - 古畑淳・歩10口 小林茂2口 丸山美子1口
 - 土方尚功1口 花柳亞紗穂3口 匿名4件
- ②団体会員 1口 5,000円
 - いにしえ体操会1口 かたくり法律事務所1口
 - 至誠第二保育園1口 寿楽会3口
 - 多摩平の森自治会2口 中村淑子バレエ教室2口
 - NKトラベル1口 多摩整骨院2口
 - (株)アイキャン1口 NPO法人愛隣舎1口
 - (株)ヴィエック・インターナショナル1口
- ◎お宝エイドでのご協力ありがとうございます
 - 湯口裕 柎廣館